

## 教育活動へのご支援・ご協力ありがとうございました

春の風を感じて、桜のつぼみがちらほら咲き始めました。本日、令和3年度の修了式の日を迎えました。先日の卒業式では120名の卒業生が6年間の課程を終えて、真弓小学校を巣立って行きました。在校生の子どもたちも、今日で1年間の教育課程を終えることができました。自分自身の1年間の成長を実感して、4月からの新しい学年に1つステージを進めることとなります。児童が毎日元気に登校できるのも地域の方々のご支援があつてこそと思います。

学校、家庭、地域が連携し、この校区の宝である児童を育てていければと思っています。本年度より真弓小学校においてもコミュニティスクール(学校運営協議会制度)が始まりました。新しい学習指導要領では、「学校の理念を学校と社会が共有し、連携・協働しながら子どもたちの資質や能力を育まなければならない」とされています。これを受けて学校運営協議会と協働活動『ハーモニーサークル』が始動しました。『ハーモニーサークル』の名称は学校と地域が共に関わり合い、つながっていったらという思いでつけました。今までも児童の登下校の見守り活動や昔遊びなどに自治会や老人会、ボランティア活動グループなど多くの方々からご支援をいただいています。ありがとうございます。これからは、更なる新しいつながり方も考えていきたいと思っています。今後も地域や保護者の皆様と協働して取り組んで参ります。末永く真弓小学校の教育活動にご支援・ご協力いただきますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 時空を超えて～ 風船の手紙の奇跡

3月3日に、静岡県在住の方からお手紙をいただきました。

『――抜粋 静岡県伊豆の国市の森の中で同封してある手紙を拾いました。不思議なご縁を感じて返信した次第でございます。詳細は分かりませんが、当時の記憶として生徒さんからの手紙を引き取ってくだされば幸いです。 ○○より 』

同封されていた児童の手紙を開いてみると

『この手紙をひろってくれてありがとうございます。私たちは月に1回全校で遊んでいます。そのグループでこの手紙をかきました。もしよければお手紙ください。』

真弓小学校 なかよしタイム 赤グループ10班』

これは平成21年2月25日に真弓小学校のなかよしタイムという活動の1年から6年でつくる12人程度のグループ活動の中で、風船に手紙をつけて飛ばしたと思われる手紙でした。児童の手紙は少し土で汚れてはいましたが、とても綺麗な状態で送られて来ました。手紙には、このグループの児童の学年と下の名前が書かれていました。2009年に真弓小学校から飛ばした手紙が13年も経って戻ってきたのです。風船と手紙は、13年間どこにあったのでしょうか。誰かに見つけられるまで、木の枝に引っかかっていたのでしょうか。

当時の1年生は、今20歳になっています。風船が静岡県まで飛んで行ったことに驚きました。ご丁寧にご連絡をくださった方にも感謝して、学校よりお礼の手紙を出ささせていただきました。こんなに時間が流れてから返事が来るなんて、当時の子どもたちは思ってもいなかったでしょう。でも、人と人との縁は不思議なもので時間を超えて交わることもあるのですね。

楽しい話が少なく感じるなかで、人の優しさを感じる不思議な出来事でした。きっとこの校区の中に風船の手紙の返事を待っていた子がいたはずで、この便りを読まれたら当時を思い出されるかもしれません。タイムカプセルを開けたような気持ちになりました。

みなさまにも、心があたたかくなるような出来事がありますように。